

新たな環境でのスタート

～利用者の方、そして地域の方々の安心のために～



約1年7か月あまりの期間を経て足羽更生園新築工事の全工程がこのたび完了しました。令和元年7月の居住棟完成後、第2期工事として共通棟の建設に着手し、令和2年3月30日に足羽更生園竣工式（神事）を執り行いました。本来ならば地域の皆さまにお披露目の場を設けさせていただき予定をしておりましたが、コロナ禍の折、新たに完成した共通棟に整備された厨房設備と、地域交流スペース（兼「福祉避難所」）の機能についてご紹介します。

クックチルが導入された新厨房設備



クックチルとは、加熱調理した食品を急速冷却し、食事の時間に合わせて再加熱し提供する調理システムです。従来の食事提供はクックサーブ（提供するタイミングに合わせて当日調理する方式）でしたが、さまざまな形態・種類の食事がある当園の場合、クックサーブは作業が煩雑になりやすく安全性の確保が大変などの課題がありました。

一方、クックチルは、ピークではないときに準備しておくことができ、提供の際には最終加熱するだけなので、提供直前の作業時間を大幅に短縮でき、計画的に調理をすることで、調理場での作業の平準化ができ、メニューの幅が広がったり、利用者の方によりきめ細かい対応ができるというメリットがあります。調理員は専門家の指導を仰ぎながら課題の改善を行い、合理化と利用者の方の食の安心につながるよう一歩一歩業務を進めていきます。



福祉避難所として

当法人の愛全園、足羽利生苑、足羽学園、足羽更生園は以前から福井市と福祉避難所としての協定を結んでいます。これに加え、当園の共通棟3階地域交流スペースも同じく認定をいただきました。今回は、災害時に活躍する福祉避難所とはどのような所かをご紹介します。



足羽学園・足羽更生園 地域交流スペース(福祉避難所)



バリアフリー

耐震性・耐火性

生活に必要な蓄え

対象/宿布町・前波町にお住まいの

- ・要援護者(一般の避難所では生活が困難な方々)
- ・避難所まで向かう事が困難な方

福祉避難所って どんなところ?



福祉避難所とは、災害時に障害者や高齢者、乳幼児や妊婦など一般の避難所では生活に支障をきたす方(要援護者)が避難生活をするために特別な配慮のされた避難所です。要援護者にとって、災害時で生活環境が整っていない場所での生活することは不便な点が多くあります。そこで、そういう方々が生活しやすい

よう、手すりやスロープ等のバリアフリーをはじめとした、さまざまな配慮がなされているとともに、耐震性や耐火性などの安全性も保障された避難所です。

120名×3日分。



この数字は、災害時用の食料の備蓄量です。当園では、120名が3日間過ごせるだけの飲料水と非常食を備え

てあり、その消費期限も常に管理されています。また、定期的に炊き出し訓練を実施しており、円滑な食事の提供が可能となります。

防災無線で できること。



当園では、防災無線の鍵を預かっており、地震・水害で道路や電話回線が寸断された場合でも、市と通信することが可能です。どの地区の誰が、また何名が、当園に避難しているのかという情報を伝えると共に、必要な救済物資を市に要請することも可能となります。

AED、あります。



当園ではAEDを2台備えており、普通救命講習を修了した職員が24時間365日常駐しています。

まとめ

今回の新築工事におきまして、新たに地域の皆様に施設の一部を活用していただく目的で「地域交流スペース(185.31㎡)を共通棟3階に設けさせていただきました。本スペースは、災害時における「福祉避難所」として、またコロナ禍が終息の暁には、会議や研修の場としてご利用いただけるよう考えております。

今後、地域の皆さまとのつながりを大切に取り組んで参ります。今後ともどうぞよろしくお願いたします。

足羽更生園
サブゼネラルマネージャー
岡崎 ゆかり

